

つながりだより Vol.32

議会報告

5月から新型コロナワクチンの予約と接種が始まりましたが、65歳以上のみなさまには大変ご不便をおかけする事態となりました。引き続き市民のみなさまの声をお聞きし、市に要望してまいります。なお、7月に入り、本市のワクチン希望数量に対して国からの供給が大幅に減少しました。今後の対応やスケジュール等については広報いばらき8月号や市ホームページをご覧くださいませよう願ひ致します。

さて、6月議会では、前半に補正予算第2号（補正額約3億8,600万円）、後半に補正予算第3号（補正額約2億1,100万円）を全会一致で可決しました。今回の「つながりだより」では、本会議における米川の質問内容と、農福連携の先駆けである障害者就労支援B型事業所の見学に参りましたので、そのご紹介等を行います（裏面参照）。



米川の本会議での質問①

府道茨木寝屋川線の未整備区間について

この都市計画道路は1963年（昭和38年）に都市計画決定が行われ、区間延長（長さ）は約1,500m、道路幅員20mです。現状について確認したところ、「令和3年3月に改訂された大阪府都市整備中期計画において、条件付きながら新規着手路線に位置づけられた」「今後は条件となっている都市計画変更や効果的な着手区間設定などに関し、大阪府と引き続き連携しながら、地権者への事業説明や用地買収などにも協力を行い、早期に事業着手されるよう努める」という建設部長の答弁がありました。



米川の本会議での質問② コロナワクチンの予約、接種の現状と今後について

5月に多くの方からお問い合わせをいただいたワクチン接種について取り上げました。①現在進行中の集団接種の状況と課題、②ワクチン管理、③今後のワクチン供給量、④集団接種と個別接種の比率、⑤65歳未満の方の予約方法等の質問をしました。（※先月の質問であるため、現況と異なる部分が多く、答弁内容については割愛させていただきます。）

【プロフィール】

よねかわ しょうり
米川 勝利
無所属 茨木市議会議員

1986年、茨木生まれ
めぐみ幼稚園、大池小学校、東中学校、茨木高校、同志社大学政策学部出身
同志社大学大学院 総合政策科学研究科博士前期課程修了、同大学院博士後期課程退学

2013年1月、茨木市議会議員選挙初当選
2017年1月、2期目当選
2021年1月、3期目当選
防災士、久敬会理事、茨木BBS会顧問、2児の父

詳しいプロフィールや福井新聞のインタビュー記事はホームページへ
<http://s-yonekawa.net/>

@yonekawashori



米川の本会議での質問③ 都市空間について

私自身、これまで、中心市街地にマンション建設が始まると聞いたり、実際に見たりすると、違和感を抱いてきました。それは維持管理や防災上の観点等の理由では解決しない違和感でしたが、以下に紹介する『人間の街～公共空間のデザイン』を読んで、違和感をようやく言語化することができました。

今回の質問の発言時間は10分であったため、景観施策の現状確認と問題提起にとどまっていますが、茨木市の中心市街地が、市民のみなさまの日常生活における暮らしの豊かさを少しでも提供できるものであってほしいと考えています。まちづくりの総合的な指標ともなる景観を切り口として、人間的スケールの都市のあり方、公共空間のデザインを次の議会で取り上げていきたいと思えます。



市役所南館 10階より撮影

6月議会とその前後の主な議会の動き

5月25日	土地開発公社理事会、市民会館跡地等整備対策特別委員会
5月28日	議案説明会
6月4日	幹事長会、議会運営委員会
6月10～11日	開会、本会議（議案審議）
6月15日	民生常任委員会（請願審査）
6月18日	幹事長会、議会運営委員会、正副委員長会
6月22日	最終本会議、閉会
6月23日	市街地整備対策特別委員会

市民の皆様からいただいた 主な問合せ・ご要望 (2021年4月～6月)

- ・コロナワクチン接種事業について
- ・道路の舗装について
- ・路面標示の改善について
- ・水路清掃について
- ・河川沿いの樹木剪定、除草について
- ・オリンピック関連事業について
- ・今後の市内でのイベント開催について
- ・今後の公立幼稚園について

(個別具体的な表現は避け、掲載の了解を得たものに限る)



今回の議会の1冊

ヤン・ゲール著／北原理雄訳
『人間の街～公共空間のデザイン』（鹿島出版会、2014年）

議会質問にあたって参考にした1冊をご紹介します。

○人間的スケール：人間の身体や感覚に即した空間尺度。

○人びとが心地よく街を歩き、自転車を利用するには、良質な人間的スケールの原則を都市構造の不可欠な一部にする必要がある。今後、多くの理由から、私たちは多くの大規模な複合施設や巨大な高層建築を建設しなければならないだろう。しかし、人間的スケールを無視する道を選んで서는ならない。

人間の身体、感覚、移動特性は人間のための良好な都市計画を実現する鍵である。すべての答えは私たちの身体に内蔵されている。求められているのは、美しい低層部を持った高層建築を建て、目の高さにすばらしい街を実現することである（本文抜粋）。



トピックス

さんさん山城（京都府京田辺市）の取り組み

7月に農福連携の先進事例である障害者就労継続支援B型事業所の「さんさん山城」の見学をさせていただきました。農福連携とは、農水省によると「**農における課題、福祉（障害者等）における課題、双方の課題を解決しながら、双方に利益があるWin-Winの取組…それが『農』と『福祉』の連携、農福連携**」（農水省制作動画より）とされています。



▶ 事業所について

当該事業所では、2011年に聴覚障害者の方の居場所のためにという思いで開設され、毎日20人ほどの方が農業、食品・菓子加工、カフェ、縫製・工作、販売などの作業を行っておられます。ろう者や難聴者だけでなく、知的障害、精神障害のある方も利用されているようです。

▶ さまざまなおところに「つながっている」物産品

こちらで生産している宇治茶はJA等に出荷、京都えびいもは有名料亭などでも使われ、2017年から始めているコミュニティカフェのランチでも「えびいもカレー」が販売されています。地域の方々がよく訪れる場所となっています。



農水省の農福連携紹介動画